



### はじめに

九州大学は、創設以来 90 年以上の歴史を通して、西日本における基幹大学としての役割を果たしてきた。我が国の内外並びに地域のさまざまな分野において指導的に活躍する人材を輩出するとともに、多くの学問分野をリードする優れた研究業績を挙げている。なかでも、近隣アジア地域との関係は深く、留学生教育や研究交流において高い実績を示し、10 学部、15 の大学院学府、15 の研究院を有するに至っており、学際化、国際化、情報化の進展においてイニシアティブをとるかたちで、教育のみならず研究においても国際的な中核機関としての特徴をますます際立たせつつある。

「知の時代」といわれる 21 世紀を迎え、九州大学の目指す大学像にふさわしい研究・教育施設の整備、新しいスタイルのキャンパス生活を実現するため、2003 年(平成 15 年)より福岡市西区元岡・桑原地区、志摩町、前原市への移転を開始する。

新キャンパスのセンター地区は、大学の総合研究博物館、大学ホール、事務局庁舎等の施設が立地する中心的エリアとして、「大学の顔」となるメイン・エントランスとして、また、学生・教職員が集うキャンパスの重心として機能する重要な地区である。さらには、周辺地域と連携した大学まち「タウン・オン・キャンパス」を形成し、「楽しみを感じながら学び住むことができる、広く社会に開かれたキャンパス」を実現するエリアとしての役割が期待されている。

糸島半島の豊かな自然と都市近郊部にある利便性を活かし、産官学の連携によって整備される九州大学学術研究都市のコアゾーンとして、九州大学新キャンパスの稼働が待たれている。センター地区には、国費による施設整備に加え、民間資金等による新たな整備手法により、地域連携、産学連携、国際交流を活性化する施設の建設を予定している。

学内の教職員、卒業生、在校生はもちろん、経済界、国の機関、自治体、地元関係者等、多くの支援に支えられ、2003 年(平成 15 年)に新キャンパスにおける最初の研究教育棟を起工した。事業の継続的展開と世界的学術研究拠点形成のため、関係各位の支援を引き続きお願いする次第である。

2003 年(平成 15 年)3月  
新キャンパス計画専門委員会

# 目次

1. 基本設計の考え方	4.2-2 配置・平面計画	4-4	4.13 給水センター	7.5 構外インフラストラクチャーとの接続	7-19	10.12 センター地区誘導指針	10-14
1.1 基本設計の役割	4.2-3 断面計画	4-5	4.13-1 基本方針	4-43		10.13 センター地区基本設計における土地利用計画	10-16
1.2 敷地特性の分析	4.3 留学生センター・韓国研究センター・アジア総合研究センター・国際交流推進室	4-6	4.13-2 配置・平面計画	4-44	8. 設備計画		
1.2-1 周辺整備状況	4.3-1 基本方針	4-6			8.1 設備計画の基本方針	8-1	11. 基本設計総合図
1.2-2 道路網	4.3-2 配置・平面計画	4-8	5. 構造計画		8.2 電気設備		11.1 基本総合図
1.2-3 水系・土地利用	4.3-3 断面計画	4-9	5.1 構造計画の基本方針	5-1	8.2-1 電力設備(受変電設備)	8-2	11.2 計画諸元(条件)
1.2-4 用途別施設分布	4.4 総合研究博物館	4-10	5.2 各施設の構造計画	5-2	8.2-2 新エネルギー・新技術	8-5	11.3 模型写真
1.2-5 センター地区を望む景観	4.4-1 基本方針	4-10	6. オープンスペース計画		8.2-3 セキュリティ設備	8-6	11.4 イメージCG
1.2-6 センター地区からの眺望	4.4-2 配置・平面計画	4-12	6.1 景観構造の形成		8.2-4 中央監視設備	8-8	
1.2-7 敷地内現況	4.4-3 断面計画	4-13	6.1-1 基本方針	6-1	8.2-5 電話設備	8-10	
1.3 センター地区の課題	4.5 研究者交流施設・国際交流会館(研究者)・外国人教員宿泊施設	4-14	6.1-2 キャンパス・COMMON/グリーン・コリドー	6-2	8.2-6 総合情報ネットワーク	8-11	
	4.5-1 基本方針	4-14	6.1-3 アカデミック・プラザとコミュニティ・プラザ	6-3	8.2-7 防災設備	8-12	
	4.5-2 配置・平面計画	4-16	6.1-4 キャンパス・モール	6-4	8.3 機械設備		
	4.5-3 断面計画	4-17	6.1-5 大学ホール/給水センター周辺	6-5	8.3-1 熱源設備	8-14	
2. デザイン・ガイドライン	4.6 屋内運動場	4-18	6.1-6 オープンスペース(その他)	6-6	8.3-2 空調方式	8-17	
2.1 デザインガイドラインの位置づけと役割・視点	4.6-1 基本方針	4-18	6.2 造成・敷地計画		8.3-3 換気設備	8-19	
2.2 全体デザインの方針	4.6-2 配置・平面計画	4-20	6.2-1 基本方針	6-7	8.3-4 給水設備	8-20	
	4.7 大学ホール	4-21	6.2-2 造成地盤高の設定	6-8	8.3-5 排水設備	8-23	
3. 配置計画	4.7-1 基本方針	4-21	6.2-3 高低差処理	6-9	8.3-6 雨水浸透施設	8-25	
3.1 配置計画の考え方	4.7-2 配置・平面計画	4-23	7. インフラストラクチャー計画		8.3-7 消火設備	8-27	
3.1-1 配置計画の考え方 1	4.7-3 断面計画	4-24	7.1 交通計画		8.3-8 都市ガス設備	8-29	
3.1-2 配置計画の考え方 2	4.8 福利厚生施設・保健管理施設	4-25	7.1-1 基本方針	7-1	8.3-9 監視・自動制御設備	8-31	
3.1-3 配置計画の考え方 3	4.8-1 基本方針	4-25	7.1-2 動線計画	7-2	9. 環境配慮型施設計画		
3.1-4 配置計画の考え方 4	4.8-2 配置・平面計画	4-27	7.1-3 バス・自動車交通計画	7-3	9.1 基本方針	9-1	
3.1-5 配置計画の考え方 5	4.8-3 断面計画	4-28	7.1-4 歩行者・自転車交通計画	7-4	9.2 環境配慮型の造成、雨水浸透計画の考え方	9-2	
3.2 配置計画	4.9 情報学習室	4-29	7.1-5 未来型交通計画	7-5	9.3 環境配慮型建築・構造計画及び電気・設備計画の考え方	9-3	
3.2-1 マスタープラン2001における骨格形成の構成概念	4.9-1 基本方針	4-29	7.2 水循環計画		10. デザイン・コード		
3.2-2 にごわいを創出する広場の形成の施設配置	4.10 課外活動共用施設	4-30	7.2-1 基本方針	7-6	10.1 デザイン・コードの位置づけと役割	10-1	
3.2-3 国費と新たな整備手法による施設配置	4.10-1 基本方針	4-31	7.2-2 給排水計画	7-7	10.2 景観域の設定とデザイン構成要素	10-2	
3.2-4 動線計画の方針	4.10-2 配置・平面計画	4-33	7.2-3 雨水浸透・排水計画	7-8	10.3 景観域ごとの特徴とデザイン・コード	10-3	
3.2-5 マスタープランを受けた敷地ゾーニング	4.10-3 断面計画	4-34	7.3 電気、ガスの供給計画		10.4 景観域ごとの空間デザイン・コード	10-4	
3.3 配置計画図	4.11 大学事務局庁舎・大学史料室・教職員施設	4-35	7.3-1 電気設備の供給計画	7-11	10.5 キャンパスイメージの構成要素	10-6	
3.4 ランドスケープ計画	4.11-1 基本方針	4-35	7.3-2 都市ガスの供給計画	7-15	10.6 建物デザイン・立面構成	10-7	
3.4-1 ランドスケープ基本方針	4.11-2 配置・平面計画	4-37	7.4 共同溝計画		10.7 スカイライン	10-9	
3.4-2 ランドスケープの形成	4.11-3 断面計画	4-38	7.4-1 基本方針	7-16	10.8 サイン計画	10-10	
4. 施設計画	4.12 学生宿舍	4-39	7.4-2 共同溝(ルート)	7-17	10.9 照明計画	10-11	
4.1 計画施設の概要と方針	4.12-1 基本方針	4-39	7.4-3 共同溝(断面)	7-18	10.10 素材・色彩	10-12	
4.2 全学教育施設・高等教育総合開発研究センター	4.12-2 配置・平面計画	4-41			10.11 オープンスペースの素材	10-13	
4.2-1 基本方針	4.12-3 断面計画	4-42					